

棚田発電による電力供給に向けて

大津畑水力発電所起工式

棚田の落差を利用して発電する「大津畑水力発電所」の起工式が8月30日、外牧区で行われました。

大津畑水力発電所では、外牧区の用水路を流れる水と棚田の落差を利用して発電を行うため、天候に左右されることなく安定した電力を発電できます。棚田発電の予想発電量は、年間約131万kwh。これは、200世帯が使用し続けられる電力量に相当します。令和4年5月から稼働予定です。



(一社)熊本県棚田発電等推進協会、九州電設(株)、熊本利水工業(株)をはじめとした関係者が参列

コロナ禍で悩む事業者へ

商工会が経営セミナー開催

商工会館で9月3日に経営セミナーが開かれました。大津町商工会が主催し、オンラインを含めて31人が参加しました。会場とオンラインを組み合わせた開催は県内の商工会で初の取り組みです。今回は、ネット販売の売り上げ向上につながる写真の撮り方の講演があり、参加した事業者の皆さんは熱心に聞いていました。大津町商工会の松永幸久会長は「事業所の皆さんからはコロナに関する相談を約1,100件受けており、商工会としても力になれるよう支援していきたい」と話しました。



デザイン会社インプレスの綿貫裕崇社長の講演を聞く事業所の皆さん

花びら一枚一枚に思いを込めて

梅の造花を寄贈

肥後大津民芸造花保存会の皆さんが7月26日に役場に訪れ、梅の造花を寄贈しました。町長室などに小型を4個と町役場庁舎1階エレベーター後方に大型の作品を展示していますので、ぜひご覧ください。

肥後大津民芸造花保存会は現在も、毎月第1・3水曜日の午後2時～4時に町歴史文化伝承館で活動しています。大津町にしかない伝統工芸を後世に伝えていくため、梅の造花づくりを体験してみませんか。

町歴史文化伝承館 ☎096(293)4100



肥後大津民芸造花保存会の皆さん

自らの手で鳥獣被害を減らす

地域駆除隊発足式

町では、農業や生活環境に被害を及ぼす野生鳥獣の捕獲作業を担う狩猟者の減少や高齢化に対応して、捕獲活動の更なる効率化を推進するために、集落の居住者が集落内での有害鳥獣の捕獲活動を実施する「地域駆除隊」の発足式を8月20日、町生涯学習センターで行いました。

式の終了後は、実際に箱わなを使いながら、県猟友会大津支部の中野さんによる安全講習会を行いました。



箱わなの使い方を学ぶ参加者

鍛冶区に防災倉庫ができました

「宝くじの助成金」で防災倉庫設置

鍛冶区の自主防災組織「鍛冶自主防災クラブ」では、「宝くじの助成金」を活用して防災倉庫と防災資機材(テントや炊き出し用かまどなど)を導入しました。

この事業は、(一財)自治総合センターが宝くじ受託事業収入を財源として実施しており、「宝くじの助成金」として全国で地域の社会貢献につながっています。



鍛冶区に新たに設備された防災倉庫

農業と福祉の連携の一助に

焼き芋の自動販売機を肥後大津駅に設置

大津町デジタルセンター(肥後大津駅南口)前に設置された焼き芋の自動販売機。設置によって大津町がからいもの産地であることを広く来訪者にPRするとともに、大津町のからいものを原材料に使用してもらうことで販路の拡大も目指しています。

この自動販売機への商品補充などの管理を町内の福祉事業所に委託することで、障がいのある人たちの就労支援にもつなげていき、農業と福祉の連携を大いに推進していきます。



自動販売機に商品を補充

焼いも屋さんの自動販売機

県内初!子ども第三の居場所

三者協定調印式

町と(特非)NPO子どもサポート・みんなのおうち、(公財)日本財団で「子ども第三の居場所」三者協定調印式を8月27日に行いました。協定締結により、NPO子どもサポート・みんなのおうちは、日本財団より財政支援を受け、子ども第三の居場所「COCO-Z」を運営し、地域の子どもたちが気軽に立ち寄ることができる居場所として、学習や体験活動など総合的な生活支援を提供します。

子ども第三の居場所とは、日本財団がさまざまな困難



⑤金田町長、⑥NPO子どもサポート・みんなのおうち江口理事長
⑦日本財団経営企画広報部長谷川部長

な状況にある子どもたちの「生き抜く力」を育むことを目的に2016年から開始した事業です。ひとり親世帯や共働き世帯の孤立や孤食など、各々の置かれている状況により困難に直面している子どもたちを対象に放課後の居場所を提供し、食事、学習習慣・生活習慣の定着などを提供しています。同時に、地域の関係機関と連携し、「誰一人取り残されない地域子育てコミュニティ」としての機能を担っています。



「COCO-Z」の遊ぶスペースの一部